

明治三十六年三月十二日
達第二十三號
改正

達第二十三號

海軍砲隊操式別冊ノ通定ム

但シ別冊ハ艦團部用ノ分ハ艦營需品ヨリ供給シ其他ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヨリ配付ス

明治三十六年三月十二日

海軍大臣男爵 山本權兵衛

十九
海軍

1409

達第二十四號

明治三十年達第十一號海軍操砲程式中野砲操法ノ部ヲ削除ス

明治三十六年三月十二日

海軍大臣男爵 山本權兵衛

二十
海
軍

1410

達第二十五號

海軍兵器造修供給規則中左ノ通改正ス

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第十條第二項中「所轄長」ヲ「所管鎮守府司令長官」ニ改ム

第十二條及第十九條ヲ左ノ通改正ス

第十二條 艦船外國航海中若ハ鎮守府遠隔ノ地ニ在ル艦船部團隊ハ消耗兵器ヲ相互補
欠スルニトテ得此場合ニ於テハ各其ノ本管鎮守府ニ報告スヘシ

第十九條 供用中ノ彈藥裝藥并火工品類ハ毎年一回其ノ全數ノ百分ノ一以下(百個未
滿ナルトキハ其ノ内壹個)ノ數ヲ擇出シテ造兵廠若ハ兵器廠ニ試験検査ヲ要求スヘ
シ但必要ニ依リ其ノ數ヲ増減スルコトヲ得

在庫ノ彈藥裝藥并火工品類モ前項ニ準スト雖モ試験検査ニ供スヘキ數ヲ半減スルニ
ト得

造兵廠若ハ兵器廠ニ於テ試験検査ヲ施行シタルトキハ別表ニ依リ其ノ成績ヲ要求ス

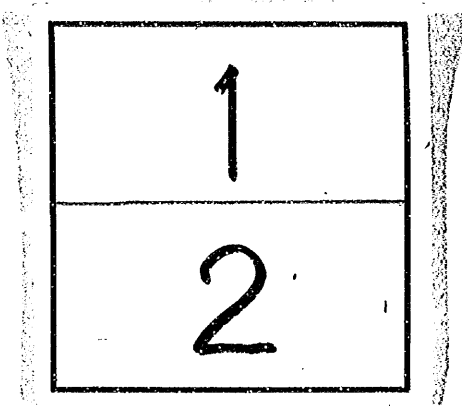
二十一

海軍

ニ交附スルト同時ニ艦政本部ニ報告スヘシ

1411

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	弾薬并装薬火工品検査成績表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1412
1413

彈藥并裝藥火工品検査成績表

年 月 日

品 種	供用(貯藏)員 數	検査員 數	成 績		要求所名	製造所名并製造年 月 日	種 目 番 號	裝 填 所 名 并 裝 填 年 月	検査日 年 月 日	記 事
			良	不良						
十二吋後裝安砲 細狀火藥	200個	2	2		富士	安社製三十三年十一月船着	横須賀	35-5-1	規定數ニ個検査シタルニ其及不良者一個宛ニ付尚ホ一個ノ検査シ其好ノ成績ヲ得タリ	
弱 裝 藥	120 "	3	2	1	"	〔ノール〕製三十三年十一月船着	横須賀	"		
空 放 裝 藥	60 "	2	2		"	二十五個三十二年三月吳製 三十五個三十三年十月横須賀製		"	規定數個ナルモ其及横須賀製アルヲ以テ(殆ト新中)各個宛ニ検査シタリ	
十五吋速射砲 細狀火藥包	1500 "	15	14	1	"	〔ノール〕製三十二年四月船着	吳	"		
空 放 裝 藥 包	150 "	2	2		"	三十四年二月横須賀製		"		
十二吋速射砲 細狀火藥包	3200 "	32	32		"	〔ノール〕製三十二年船着	吳	"		
空 放 裝 藥 包	320 "	4	4		"	三十三年五月吳製		"		
四十七密米山内重砲 細狀火藥	800 "	8	5	3	"	三十二年六月東京造兵廠製		"		
鍛 鋼 榴 彈 藥	800 "	8	8		"	三十三年七月吳造兵廠製		"		
空 放 裝 藥 包	80 "	1	1		"	三十二年三月横須賀製		"		
四十七密米山内輕速射砲 細狀火藥	752 "	8	8		"	三十三年十月吳造兵廠製		"		
鍛 鋼 榴 彈 藥	752 "	8	8		"	三十二年六月吳造兵廠製		35-5-2		
震 彈 藥	96 "	3	2	1	"	三十一年四月東京造兵廠製		"	規定検査員數個ノ検査シタルニ成績不良ノモノ以テ尚ホ其個宛ニ検査シタルニ其成績ヲ得タリ	
空 放 裝 藥 包	80 "	1	1		"	三十四年六月佐世保製		"		
伊集院信管 第一號	1820 "	19	19		"	四十個三十三年三月吳製 八百二十個三十三年六月東京造兵廠製		"		
全 第二號	3200 "	32	31	1	"	三十三年五月東京造兵廠製		"		
發 火 管	2510 "	25	24	2	"	三十二年六月吳造兵廠製		"		
信 號 火 箭	69 "	1	1		"	三十年七月 製造		"		
長 號 火	67 "	1	1		"	三十三年六月 製造		"		
短 號 火	96 "	1	1		"	三十二年八月 製造		"		
號 火 用 雷 管	263 "	3	3		"	三十一年三月 製造		"		
火 管	75 "	1	1		"	三十二年七月 製造		"		
安 全 導 火 線	48 罎	1 罎	1 罎		"	三十年九月 製造		"		
村田速發銃 彈 藥	144600 個	145	140	5	"	〔ノール〕製三十三年三月吳製 〔ノール〕製三十三年九月吳製 〔ノール〕製三十三年十月吳製		"	成績不良五個ノ内三個ハ落英ニ歸リシモノトシテ	
全 空 包	3000 "	3	3		"	三十年八月陸軍製		"		
拳 銃 彈 藥	7800 "	8	8		"	二十七年五月船着		"		

海軍兵器廠

工場主管
検査科長

検査主任

品 種	供用(貯蔵)員 數	檢 査 員 數	成 績		要 求 所 名	製 造 所 名 并 製 造 年 月 日	種 目 番 號	裝 填 所 名 并 裝 填 年 月	檢 査 年 月 日	記 事
			真	不 真						
十二斤長安砲 組狀火藥	200個	2	2		富士	安社製三十三年十一月船着	四 號	横 須 賀 三十四年十月	35-5-1	規定數二個検査シタルニ其及不其各一個宛ニ付向ホ一便ノ検査ニ其好ク成績ヲ得タリ
射 裝 藥	120 "	3	2	1	"	(ノール)社製三十三年十一月船着	A 號	横 須 賀 三十四年十月	"	
空 放 裝 藥	60 "	2	2		"	三十五個三十二年三月吳製 三十九個三十二年十月横須賀製			"	
十五斤連射砲 組狀火藥	1500 "	15	14	1	"	(ノール)社製三十二年四月船着	五 號	吳 三十四年十一月	"	
空 放 裝 藥 包	150 "	9	2		"	三十四年二月横須賀製			"	
十二斤連射砲 組狀火藥	3200 "	32	32		"	(ノール)社製三十二年船着	B 號	吳 三十四年十一月	"	
空 放 裝 藥 包	320 "	4	4		"	三十三年五月吳製			"	
四十七密米山内連射砲 組狀火藥	800 "	8	5	2	"	三十二年六月東京造兵廠製			"	
鍛 鋼 榴 彈 藥	800 "	8	8		"	三十三年七月吳造兵廠製			"	
空 放 裝 藥 包	80 "	1	1		"	三十二年三月横須賀製			"	
四十七密米山内連射砲 組狀火藥	752 "	8	8		"	三十三年十月吳造兵廠製			"	
鍛 鋼 榴 彈 藥	752 "	8	8		"	三十三年六月吳造兵廠製			35-5-2	
震 彈 藥	96 "	3	2	1	"	三十一年四月東京造兵廠製			"	
空 放 裝 藥 包	80 "	1	1		"	三十四年六月佐世保製			"	
伊集院信管 第一號	1820 "	19	19		"	發千個三十二年三月吳製 八百二十個三十二年六月東京造兵廠製			"	
全 第二號	3200 "	32	31	1	"	三十三年五月東京造兵廠製			"	
擊 發 火 管	2510 "	26	24	2	"	三十二年六月吳造兵廠製			"	
信 號 火 箭	69 "	1	1		"	三十年七月 製造			"	
長 號 火	67 "	1	1		"	三十三年六月 製造			"	
短 號 火	96 "	1	1		"	三十二年八月 製造			"	
號 火 用 雷 管	263 "	3	3		"	三十一年三月 製造			"	
火 管	75 "	1	1		"	三十二年七月 製造			"	
安 全 導 火 線	48 尋	1 尋	1 尋		"	三十年九月 製造			"	
村 田 連 發 銃 彈 藥	144600 個	145	140	5	"	一万五千個三十二年三月陸軍製 十萬九千個三十二年五月陸軍製 二万九千九百個三十二年七月陸軍製			"	
全 空 包	3000 "	3	3		"	三十年八月陸軍製			"	
拳 銃 彈 藥	7800 "	8	8		"	二十七年五月船着			"	
大 粒 火 藥	763 匁	8 匁	8 匁		"	三十年七月 製造			"	
「ワイットロース」式軟雜淨標用 料 藥	40 個	1	1		"	三十年二月 製造			"	
煙 火 莢	40 "	1	1		"	三十二年六月 製造			"	
十二斤長安砲 組狀火藥	200 "	2	2		"	四百個三十二年五月製造 四百個三十二年十月製造	三 號	横 須 賀 三十三年十月	"	
鍛 鋼 榴 彈 藥	120 "	2	2		"	四百個三十二年五月製造 四百個三十二年十月製造	六 號	横 須 賀 三十三年五月	"	
濕 綿 火 藥	2721.6 匁	0.510	0.510		"	三十四年獨國製			"	

海軍造兵器廠

工場主管

検査科長

検査主任

規定検査員數四個ノ検査シタルニ成績不真ノリシヲ以テ尙ホ三個ノ検査シタルニ其成績ヲ得タリ

成績不真五個ノ内三個ハ藥莢ヲ射撃ヲ生シタルモノナリ

大正元年三月
海軍省
本署
上
廢止

達第二十六號

航泊日誌摘要報告ヲ別紙ノ通改正ス

清

明治三十四年達第百二号

明治二十六年三月十二日

海軍大臣男爵 山本權兵衛

二十二
海
軍

1414

明治
年
月
軍艦

本月中ニ於ケル教育訓練實施統計										備考	
種類	項目	回数	実施回数	記事	種類	科目	回数	実施回数	記事	備考	
精神教育	勅諭奉讀				練習	砲術	兵曹一等水兵				ノモリテ記入スヘシ例ハハ兵曹一等水兵ヨリ成ル練習者ニテハ各隊ニ砲術ヲ教授セシムルコトニテハ平均シテ砲術ノ部兵曹一等水兵ノ間ニ記入スルカ如シ(四)五(六)ニテ用フ但シ回数ヲ算スルハ各基本部ニテハ定メタル練習時間(日課)ヨリ小汽船等ニテ施行シタルハ本表ノ区分ナク更ニ小分シテ別シテ本欄中ニ記載スヘシ例ハハ砲術ノ部兵曹一等水兵ノ間ニ記入スルカ如シ(四)五(六)ニテ用フ但シ回数ヲ算スルハ各基本部ニテハ定メタル練習時間(日課)ヨリ
	講話					水雷	兵曹一等水兵				
	諸法規類講義					運用	兵曹一等水兵				
						信術	兵曹一等水兵				
						音樂	軍樂手一等軍樂生				
						船術	船匠手一等木工				
						機務	機關兵曹一等機關兵				
						兵工	鍛冶手一等鍛冶				
						看護	看護部員				
						會計	筆記一等厨宰				
一般	臨戰準備				習	二等厨宰					
	合戰準備					二等厨宰					
	戰闘操練					二等厨宰					
	夜中戰闘操練					二等厨宰					
	水雷艇防禦操練					二等厨宰					
	端舟軍裝					二等厨宰					
	水雷艇軍裝					二等厨宰					
	反裝水雷艇軍裝					二等厨宰					
	敵艦捕獲操練					二等厨宰					
	陸戰隊					二等厨宰					
操	防火操練				教	看護部員					
	防火隊派遣操練					看護部員					
	防水操練					看護部員					
	總員乘艇退去操練					看護部員					
	弱者救助操練					看護部員					
	帆前又ハヘ(マ)操練					看護部員					
	水雷防禦網展張					看護部員					
	總端舟燒漕					看護部員					
	總端舟帆走					看護部員					
	錨又ハ錨鎖運搬					看護部員					
練	探海又ハ掃海操練				育	主計部員					
	出入港操練					主計部員					
	曳船曳カレ船操練					主計部員					
	潜水器準備操練					主計部員					
						主計部員					
						主計部員					
						主計部員					
						主計部員					
						主計部員					
						主計部員					
部	砲員				署	看護部員					
	水雷部員					看護部員					
	陸戰銃隊員					看護部員					
	野砲員					看護部員					
	彈藥庫及運彈員					看護部員					
	軍醫官補助員					看護部員					
	信號員					看護部員					
	傳令員					看護部員					
	補索員					看護部員					
	防火隊員					看護部員					
教	端舟員				科	看護部員					
	檣樓及甲板員					看護部員					
	機械室員(基本配置航海配置)					看護部員					
	機械室員(常時受持)					看護部員					
	汽罐室員(基本配置航海配置)					看護部員					
	汽罐室員(常時受持)					看護部員					
	補助機關員					看護部員					
	雜務員					看護部員					
	望砲助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
特別練習	望水雷工助手				兵種	看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
兵曹	望水雷工助手				水兵	看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					
	望水雷工助手					看護部員					

(三)

日	七 曜 日	事 記
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		

明治
年
月
軍艦

(二)

明治
年
月
軍艦

七 日 日	出入港時間 h m A M 又 P M	碇泊名 若クハ 航路 遠航 中 正午 ノ 緯度	航程 汽走 ハ 航 路 ノ 長 サ ハ 何 リ ト ス ル カ ハ 何 リ ト ス ル カ ハ 何 リ ト ス ル カ	積算航程 (哩)	碇泊 日 時 分 秒 D h m	航海 日 時 分 秒 D h m	一 航 路 中 最 モ 長 ク 用 ヒ タ ル 一 時 間 汽 走 速 力
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							

汽走
航路

航程合計

碇泊日數 航海日數

3101
0101

1417

軍艦 航泊日誌摘要報告
 明治 年 月 日
 職官氏名印

國 籍	本	籍		
	本	月	日	
	港	役務ノ變更	前月ヨリ	前月ヨリ
			日ヨリ	日ヨリ

機關最近公試成績

項目	實馬力	機回數	速力	燃料消費	施行年月日
強壓通風全力					前後
全速力					前後
大至急速力					前後
至急速力					前後
急速力					前後
通常速力					前後
經濟速力					前後

砲台公試	回轉
水雷公試	艦ノ指
自差測定	

炭水消費額	計	賞數	間
英炭		叙勳者	シタル者
和炭	計	受善行章者	トニシタル者
炭水		昇行狀者	トニシタル者
其他受賞者		昇進者	
本月乗艦セル下士卒員數		衛生	
本月中退輪セル下士卒員數			

此ハ告タル中受ル令着ル要水象ル寶天週キ學其
 欄現ニル外ン受領調シ命着手事銀路一秋驗常英セ不職他
 内狀記モ土件シ命テ中業及集及見ナニシ實驗突過及
 件ニ報シノ申各ア命テ中業及集及見ナニシ實驗突過及

1418
1419

發送 番號	軍艦 航泊日誌摘要報告	
	於 明治 年 月 分	
國本	職官氏名印	
	本籍	本 月 間
港艦	前月ヨリ	前月ヨリ
	日ヨリ	日ヨリ
	日ヨリ	日ヨリ

機關最近公試成績

項目	實馬力	機關數	速力	每石消費	施行當時	施行年月日
強壓通風全力					前後	
全速力					前後	
大至急速力					前後	
至急速力					前後	
急速力					前後	
通常速力					前後	
經濟速力					前後	

各公試及測定最近施行年月日

砲類公試	回轉器測定
水雷公試	艦ノ惰力測定
自差測定	

炭水消費額	賞 數	罰 數
英炭	叙勳者	違禁者ハ致セ
和炭	受善行章者	犯シタル者
飲用水	昇行狀者	令ニ罰シタル者
電燈	其他受賞者	令ニ罰シタル者
本月乗艦セル下士卒員數	衛生	アラスシテ行狀ナ降
本月退艦セル下士卒員數	患者別	等セタル者
	一ヶ月間延數	等セタル者
	每一日平均數	等セタル者
		計
		送院患者數
		在院患者數

此ハ機内ニ	告ニシテ	タノ上申	中ノ件名	受領シテ	令命	着手中	ル業	水及	象ニ	實ニ	天候	遇シ	キニ	其ノ	ノ他	施シ	及	及	日	流病	染及	疫事	ノ類	シテ	ヘシ
ニ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ

1418
1419

達第二十七號

水雷艇日誌摘要報告第五頁ヲ別紙ノ通改正ス

但現在用紙へ訂正ノ上使用スヘシ

明治三十六年三月十二日

海軍大臣男爵 山本權兵衛

二十三

海

軍

1420

五

種類	項 目		回数 實施	記 事	備考
	本 季 間 = 於 ケ ル 演 習 及 教 育 實 施				
精神教育	勅諭奉讀衍義	話			表ノ項數ヲ示ス 兵曹水兵其他ノ教育科目中一乃至五等トアルヘ下士卒教育規則中驅逐艦水雷艇員教育科目
	諸法規類講義	義			
一般操練	臨戰準備	備			
	合戰準備	備			
	戰闘操練	練			
	防火操練	練			
	防水操練	練			
	弱者救助操練	練			
	出入港操練	練			
	曳船曳カレ船操練	練			
兵曹水科目	砲術(一乃至五)				
	水雷術(六乃至十一)				
	運用術其他(十二乃至二十二)				
	普通學(二十 三)				
	機關兵曹機目	機關術(一乃至十一)			
		水雷工術(十二乃至十三)			
		武科(十七乃至十八)			
		雜科(十四、十五、十六、十九、二十)			
	演習其他	普通學(二十一)			
		艇砲射擊	擊		
內筒砲射擊		擊			
小銃射擊		擊			
拳銃射擊		擊			
	演習				
	高速力試	驗			

1421

達第二十八號

海軍糧食條例第八條ノ食料ハ明治三十六年度間左ノ通定ム

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

備考	割増食料	食料					
		食	内國	外國	内國	外國	内國
依ル 清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國額ニ	外 國 額	食	別	一	食	代	價
		額	十	五	錢		
	内 國 額	額	八	錢			
	外 國 夜 食 額	額	二	錢	四	厘	
	内 國 夜 食 額	額	一	錢	四	厘	
	外 國 額	額	十	二	錢		

達第二十九號

糧食經理規程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給スル場合ノ最上限金額ハ明治三十六年度間左ノ通定ム

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

備考	食費					
	食	内國	外國	内國	外國	内國
ニ依ル 清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國ノ額	犯 罪 者	三	錢	五	厘	
	額	三	錢			
	内 國 夜 食	二	錢			
	外 國 夜 食	十	三	錢		
	内 國 額	七	錢			
	外 國 額	十	三	錢		

二十四

海軍

達第三十號

糧食經理規程第十九條第三項ニ依リ購買スル糧食品代價ハ明治三十六年度間別表ノ通定

ニ

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

二十五

海軍

1423

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

糧食品代價表

考 備	火酒	凝	鹽	類		醬油	砂糖	麥類	茶焙	類	穀	類	肉魚獸鳥	包 麵		品 目	種 別	
				酢油	胡麻油									類	類		類	類
一 本表記載外ノ諸外國ニ在リテハ時價ヲ以テ購買スルモノトス 二 本表ノ代價ヲ以テ購買シ能ハサルトキハ一割増以内ノ代價ヲ以テ購買スルニトテ得但シ 艦隊所屬ノ艦船ニシテ艦隊主計長其ノ地ニ在ルトキハ其ノ承認ヲ受クヘシ 三 前項ニ依リ割増購買ヲ爲シタルトキハ其ノ品名數量代價ヲ在籍鎮守府經理部長ヲ經テ經 理局長ヘ報告シ艦隊所屬ノ艦船ハ同時ニ艦隊主計長ニ報告スヘシ	燒	脂	一貫匁	全	全	一升	全	全	全	全	全	全	全	全	全	數量	別	別
		耐	全														價	第一區
	一升															額	第二區	別
																額	第三區	別
																額	第四區	別
																額	第五區	別
																額	第六區	別
																額	第七區	別



達第三十一號

明治三十二年達第五十七號鎮守府經理部衣糧科ニ於テ使役スル麵包夫服業時間表中末欄
第三項ヲ刪除ス

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

二十六

海軍

1425

達第三十二號

横須賀海軍造船廠ニ於テ製造ノ第十九號驅逐艦ヲ速島ト命名セラレ

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第三十三號

驅逐艦速島へ信號符字左ノ通點付ス

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

G Q N J 速島

二十七 海軍

達第三十四號

軍艦及水雷艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内ニ「速島」ヲ加フ

明治三十六年三月十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第三十五號

吳海軍造船廠ニ於テ製造ノ淺隈水砲艦ヲ宇治^{ウヂ}ト命名セラル

明治三十六年三月十四日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第三十六號

軍艦宇治へ信號符字左ノ通點付ス

明治三十六年三月十四日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

G Q N K 宇 治

二十八

海 軍

達第三十七號

軍艦及水雷艇類別等級別表中砲艦二等ノ欄内ニ「宇治」ヲ加フ

明治三十六年三月十四日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第三十八號

軍艦職員勤務令中左ノ通改正ス

明治三十六年三月十九日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第一章第九十五條ヲ左ノ如ク改ム

第九十五條 艦長ハ公務又ハ特別ノ場合ノ外乗員ノ半數以上ヲシテ一時ニ艦ヲ離レシム

ヘカラス但シ之ヲ半數ニ分ツハ各職別ニ從ヒ且成ルヘク各等級ニ依リ艦ノ保安ニ支障

無カラシムルコトヲ期スヘシ

第三章第一條第五號中「及製氷機」ヲ「製氷機及蒸氣消毒器」ニ改ム

同章第二十三條ヲ第二十三條ノ一トシ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十三條ノ二 機關長ハ高速力試験施行前及其ノ施行後各罐ノ爐筒内徑水管罐ニ在テハ最
下列水管ノ屈曲

ヲ計測シ變形ノ有無ヲ確メ其ノ狀況ヲ艦長ニ報告スヘシ

二十九

海軍

達第三十九號

自今海軍機關總監工學博士宮原二郎ノ考按ニ係ル水管式汽罐ヲ採用シ宮原水管式汽罐ト

稱ス

明治三十六年三月十九日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

海軍諸則
登載

達第四十號

軍艦進水手續中左ノ通改正追加ス

明治三十六年三月十九日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第一條中「(驅逐艦)」ヲ「(千噸未満ノ)」ニ改ム

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第八條 千噸未満ノ軍艦(驅逐艦)ヲ進水セシメラル、トキハ海軍大臣其ノ命名書ヲ當該鎮

守府司令長官ニ送授シ當該鎮守府司令長官ハ前諸條ニ準シ進水式ヲ施行スヘシ但シ此

場合ニ於テハ第六條ノ參列官中艦政本部第三部長及當該鎮守府艦政部長ノミ參列スル

モノトス



三十

海軍

達第四十一號

海軍監獄監内規程中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十四日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第六條中體操ノ下ニ「及裝填演習砲致練、焚火術」ヲ加フ

第七條 削除

第十一條 服役時間表中十一月「八時間」トアルヲ「七時三十分間」ニ改ム

第十九條末項ヲ左ノ如ク改ム

會議ノ議案ハ會同員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

達第四十二號

明治三十三年達第八十一號通常物品出納命令官會計官吏表中水路部ノ品名欄ニ「測器修理用物品、測器保管運搬用物品」ノ十六字ヲ追加ス

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第四十三號

海軍望樓規則中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

第二條中「之ヲ所管鎮守府司令長官」ヲ「之ヲ其ノ隷スル鎮守府望樓監督官若ハ要港部參謀長」ニ改メ第二項ヲ削除ス

第三條及第七條中「鎮守府」ノ下ニ「若ハ要港部」ヲ加フ

第九條及第十條中「普通電信取扱規則」トアルヲ「逓信省ノ定メタル電報規則」ニ改ム

三十二

海軍

第十一條第二項第十五條及第十九條中「望樓監督官」ノ下ニ「若ハ要港部參謀長」ヲ加フ

達第四十四號

海軍文官考課表規則中別表第二號望樓欄内望樓^監監督官ノ下ニ「要港部參謀長」ヲ加フ

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

明治三十四年
三月二十六日
改正

改正

達第四十五號

海軍章程別冊ノ通改正シ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

但別冊ハ之ヲ要スル向ヘ經理局ヨリ配付セシム

明治三十四年達第百三十三号

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

三十三

海軍

1432

大正元年達
第五十九号
海軍小銃射撃教範及
リ配附ス
大正元年達
第五十九号
海軍小銃射撃教範及
リ配附ス
廢止

達第四十六號

海軍小銃射撃教範別冊ノ通定ム

但別冊ハ艦隊部用ノ分ハ艦營需品ヨリ供給シ其ノ他ハ之ヲ要スル向ヘ海軍教育本部ヨ

リ配附ス

明治三十六年三月三十日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第四十七號

明治二十八年達第二百十號ヲ廢ス

有

明治三十六年三月三十日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

達第四十七號參照

明治二十八年達第二百十號ハ海軍小銃射撃教範ノ件ナリ

三十四

海軍

達第四十八號

海軍官印規程中左ノ通改正ス

明治三十六年三月三十一日

海軍大臣 男 鷗山本權兵衛

第二條ヲ左ノ通改ム

本省 人事局 經理局 軍令部 教育本部 鎮守府 要港部 鎮守府經理部 海兵團
軍法會議 監獄ニハ應印ヲ備フ其ノ寸法ハ各曲尺方一寸二分トス但シ本省鎮守府及要
港部ニ於テ辭令書ニ捺押スル應印ノ寸法ハ曲尺方二寸二分トス

第三條ヲ左ノ通改ム

總務長官 副官 秘書官 本省局長課長 大臣直屬廳長 軍令部長次長局長 教育本
部々長 艦政本部々長 艦政本部長所屬廳長 司令長官 司令官 參謀長 鎮守府部
長 鎮守府司令長官所屬廳長 鎮守府艦政部長所屬廳長 艦團長 司令 兵事官 望
樓監督官 學校長 練習所長 仕辨命令官 出納官吏(軍艦出納官吏ハ軍艦經費爲替拂取付
取扱手續ノ規定スル所ノモノニ限ル)常

三十五

海軍

設軍法會議主理錄事ハ職印ヲ備フ其ノ寸法左ノ如シ

- 一 親補官ノ職印 曲尺方一寸
- 二 勅任官ノ職印 曲尺方九分
- 三 大臣直屬廳長勅任官
ヲ除クノ職印 曲尺方八分
- 四 奏任官大臣直屬廳
長ヲ除クノ職印 曲尺方七分
- 五 判任官ノ職印 曲尺方六分

前項ノ職印ハ主理錄事ヲ除ク外各職ノ心得又ハ代理官之ヲ使用スルコトヲ得
委員長委員其ノ他臨時ニ置カレタル職務ニ在テハ職印ヲ使用スルノ限ニアラス但必要
止ムヲ得サルモノハ大臣ノ認許ヲ得テ特ニ其ノ交付ヲ受クルコトヲ得